



にじのはし幼稚園 園だより



令和 6 年 11 月 号
港区立にじのはし幼稚園
園長 飯田 美弥

今年の10月は、観測史上初の夏日が記録されたという報道がありました。しかし、明け方は急に寒くなる日もあり、季節が進んでいることを感じます。寒暖差のため秋を通り越して冬が来るかのようにも思えますが、実りの秋を駆け足で通り過ぎてしまうことなく、しっかりと味わい、心と体を満たして冬に備えたいものです。にじのはし幼稚園では、この秋ヒメリンゴにはじまり、ミカンやカキなどたくさんの実がなっています。また、11月には、サツマイモの収穫も予定しています。まさに「実りの秋」を体験している子どもたちです。



9月の末に運動会を終え(たくさんの応援ありがとうございました!）、子どもたちは翌週からその余韻を楽しみながら遊んでいました。特に、自分よりも上の学年がしていたリズムやリレーなどに、喜んで参加する姿がありました。練習をしたわけではないのに、同じように動く姿からは、学びの基盤を見せてもらったように思いました。(学ぶの語源は真似るであるという説もあります。)それは、誰かに言われてやるのではなく、自分からやってみようという気持ちが出ている姿でした。それも、内面の実りと言えるのではないのでしょうか。

さて、秋は月が美しい季節でもありますが、本園では10月に秋のお茶会を行いました。着物を着た先生からお茶をいただく経験は、日本の伝統文化に触れるいい機会となりました。港区の施策で5月から行っているNTとの活動は、単に英語の活動ということではなく、遊びを通した総合的な指導を行う幼稚園の特色を生かして、国際理解の意識の芽生えを培うというねらいがあります。先日区が行ったアンケートの結果をお示したところではありますが、改めまして、幼児期からの一貫した国際理解教育のためのNTの配置であることをご理解いただき、遊びの中で楽しみながら自然に英語や他国の文化に触れることと併せて、日本の伝統文化に触れることについても、本園の特色として大切に積み重ねていきたいと思えます。



11月11日からは、令和7年度の新入園児の募集要項・申込書の配布が始まります。詳細は区報、ポスター、区のHPからご覧いただけます。是非、近隣の方にお知らせください。

幼稚園経営計画 今年度の主な取り組みからの抜粋

(5)日本の伝統文化や他国の文化に触れ、国際理解につながる経験を充実させます。

- ①学校2020レガシーの「日本人としての自覚と誇り」を重点とし、季節の伝統行事やお茶会など、伝統文化に触れる機会を大切にし、日本文化の良さを感じさせ、小中につながる国際理解の意識の芽生えを培います。
- ②国際理解の意識の芽生えを培うため、幼稚園ネイティブティーチャーと連携し、自国・他国の文化や英語に触れる活動を実施し、異文化への興味をもたせ、異なる文化をもつ人々への受容や共生への態度・能力の基盤を育成します。